



## 「エイジレス・ソサイエティ」の創造にむかって

（財）生涯学習開発財団理事長・松田 妙子

「人生八〇年時代」「超高齢化社会」——こんな言葉もいまやすっかり耳慣れてしまった感がありますが、果たしてどれだけの人がそれが自分のこととして受け止め、具体的な対策をもっているでしょうか。「高齢化社会」と一口にいいますが、この四〇年間に一挙に二五年も人生が長くなってしまったのです。現状延長型の人生設計では、「豊かな老後」は望めません。いままでの価値観を根本的に切り換え、新しい発想で、これからの人生を考えなければならぬときだと思えます。

これまでの日本における教育は、すべて第一の就職にそなえるためのものでした。いまはどんな過疎地にも塾があります。モノは溢れ、教育までも溢れているという状況です。けれども、第二の就職にそなえて学ぶためには、場所も、時間もほとんどなかったといえるでしょう。大学を出て企業に勤め、終身雇用で五五〜六〇歳まで働き、引退というのがおおかたの人生の図式でした。ところが、これからはそんなパターンは適用しなくなります。大学卒業後の第一の就職と同じくらいの長い時間を定年後生きなければならぬのですから——。定年は、ゴールではなく、第二の社会人としてのスタートです。人生の折り返し点、四〇歳になったら第二の社会人としての出発にそなえて準備にとりかかろうというのが、私の提案です。

私は、これからの世の中に、年齢という枠を越えた社会——私はこれを「エイジレス・ソサイエティ（無老化社会）」と呼んでおります——を創っていくことをめざしていきたくと考えております。

そこで痛感するのが生涯学習の必要性です。仕事のかたわら、もうひとりの自分を育てていくことです。自分なりの学習をもつことで、新しい発想やさまざまな分野の人びととのコミュニケーションも生まれ、企業を離れるころには努力がきつと花開くでしょう。それが精神的に、また経済的に大きな支えになります。

生涯学習とは、生涯にわたって社会との扉を開けておくための学習であると私は考えております。

国や企業がすべてお膳立てをする時代は、もう終わりました。一人ひとりが考え、人生のシナリオを書き、行動しなければならぬ時代です。

生涯学習開発財団は、こうした考えにもとづき、『ライフ・ラーニング』の発行を手はじめに、次に紹介するような事業を計画しております。

## 財団法人 生涯学習開発財団の事業プラン

### 1 『ライフ・ラーニング』の発行

季刊『ライフ・ラーニング』は、エイジレス・ソサイエティ構築のためのささやかな一歩として、このたび創刊のはこびとなりました。とくに今号は、生涯学習についてのさまざまな考え方と、具体的な取り組みを紹介し、生涯学習社会のあり方について考えるきっかけとなることをめざして編集いたしました。

今後とも、生涯学習についての各界の方々のご意見や、国・自治体などの行政、さらに民間の対応などを積極的に取り上げ、また生涯学習の実践者の紹介や、誌上カウンセリングなど、意欲ある方に役立つ記事を盛り込んでいく予定です。

社会教育にたずさわる方、学習施設に関係する方などにとって役に立つ専門誌であるとともに、自らの努力と意欲で、これからの人生を生き生きとすごしていきたいと望んでいるすべての方々には、欠かさない情報誌として、魅力ある誌面づくりをしたいと考えております。ぜひ、みなさまのご意見やご希望などをお寄せください。お待ちいたしております。

今後とも『ライフ・ラーニング』を暖かく見守り、ともに育ててくださいますようお願い申し上げます。



## 2 生涯学習社会の基盤づくり

### ● 学習情報提供システムの整備

生涯学習開発財団は、「学習とともにある人生」をめざす一人ひとりの方に、具体的なお手伝いをすることを大きな役割として考えております。生涯学習の重要性が高まれば高まるほど、整理された学習情報が、スムーズに学習希望者に提供される必要があります。

先駆的な自治体や施設では、独自に整理した学習情報の提供サービスを行なっているところもありますが、個々バラバラな整理法では、せっかくの貴重な情報も役に立たないことになりかねません。どこにいけば、どんなことを、どんな方法で学べるのか、どこにどんな先生がいるかなどをスムーズに提供できる、全国共通の統一した情報整理の形式と、情報提供システムの開発は、生涯学習の時代を迎えるにあたって、緊急に整備されなければならない課題です。

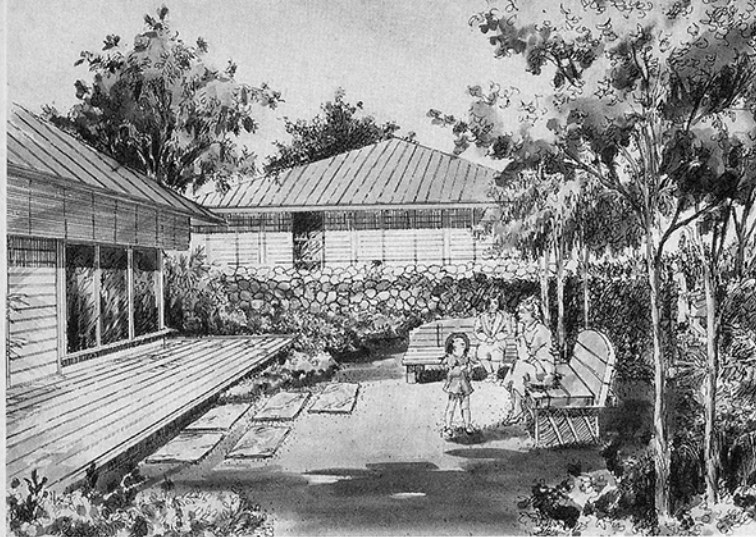
そこで、生涯学習開発財団では、全国どこでも使用できる生涯学習情報のインデックスの研究開発をすすめております。学びたいことに関する情報が、全国どこでも簡単に手に入るシステムこそ、豊かな生涯学習社会の基盤になることは言をまちません。全国の自治体や各施設の窓口にも、統一された情報提供システムがそなえられるために、力をつくしたいと考えております。

### ● 「L」式学習適性診断」の制作と普及

「仕事のほかに、何か生きがいにつながることを始めたい。でも何をやらなければならないのかよくわからない」という方の自己発見のお手伝いに、生涯学習開発財団では、その方にふさわしい学習項目をみつけるための「学習適性診断」を開発いたしました。

この「診断」は、約五〇項目の質問への回答をコンピュータにインプットし、①どんな性格か②どんなことに意欲があるか③どんなことに興味を示すかをグラフで表わします。そのデータをもとに数百項目の学習群のなかから回答者にふさわしい二〇項目の学習項目が検索されるシステムです。

ご自分にふさわしい学習を捜すための参考に、この「L」式学習適性診断」をぜひご利用いただき



たいと思います。

### ●生涯学習カウンセラー(仮称)の養成

生涯学習に取り組みたいという方の動機や事情、また家庭や職場の環境などはさまざまです。

生涯学習開発財団では、一人ひとりの方の自己啓発のお手伝いをするために、生涯学習の情報に詳しいことはもとより、悩みや不安を受け止め、適切なアドバイスと学習相談のできる「生涯学習カウンセラー(仮称)」の養成のためのカリキュラムと養成システムの実現をはかっております。学習を希望される方が訪れる各学習施設の窓口にも、学習情報がスムーズに提供でき、学習適性が診断できる機能があると同時に、こうしたデータをもとに、一人ひとりの方に親身になって相談にのることができる専門のカウンセラーがいることが、今後ますます求められてきます。

意欲のある方が適切な学習機会にめぐりあいふさわしい学習メニューを手にするために、専門のカウンセラーの適切なアドバイスが手軽に受けられるようになることを願っております。

「L」式学習適性診断」に関心のある方、またカウンセリングに興味のある方は、巻末の「読者カード」ハガキを利用して当財団にご送付ください。先着一〇〇名様に、「L」式学習適性診断」の質問用紙をお送りいたします。

## 3 「生涯学習のむら」の建設

「生涯学習のむら」は、「学ぶ」という目的を共有するコミュニティです。自然に恵まれた環境のなかで、同じ土地で暮らしながら、共通の趣味や研究テーマを通して、隣人同士が世代をこえて助け合い、おとしよりと若い世代がともに参加する、人情あふれる新しい生活の場をつくり出そうという計画です。企業に勤めつつ、週末は自分たちのコミュニティでの活動を大切に作る生き方が、これからの新しいライフスタイルになることでしょう。

この計画は、建設省の重点政策として、六十三年度中に一五カ所を選定し、三カ所を着工するための予算措置がとられ、「住宅産業研修財団」や、各自治体、建設関係企業などとともに、実現にむけて具体策が練られております。(本誌一五九ページ参照)